

令和元年度 NIE 実践報告

さつま町立柏原小学校

1 本校 NIE 教育の目標

自ら学び、主体的に学習に取り組むことができる子供の育成のために、効果的な新聞活用を生かした指導法の実践を図る。

2 各学年の目標

- 低学年・・・ 新聞の写真や文字に興味をもち、新聞に親しむことができる。
 - 中学年・・・ 新聞の記事を読み、自分の考えをもち、表現することができる。
 - 高学年・・・ 新聞各社の同一記事を比べて読んだり、記事と自分の考えや、友達の考えと自分の考えを比べたりしながら、自分の考えを伝え合うことができる。
- ※ 本年度は特に「話すこと・聞くこと」の能力の育成に取り組む。

3 全学年共通の取組

(1) NIE コーナーの充実

- ・ NIE タイムの後、実践した感想やワークシート、活動の様子の写真を掲示する。

(2) ファミリーフォーカスの実践

- ・ 学期1回ファミリーフォーカスの実践を通して、家族で考えを交流する。

(3) 委員会活動での取組

- ・ 新聞情報委員会による気になる記事へのフセン付けやコメント記入をする。
- ・ 校内放送で新聞記事の紹介をする。

(4) 教師による新聞記事の活用

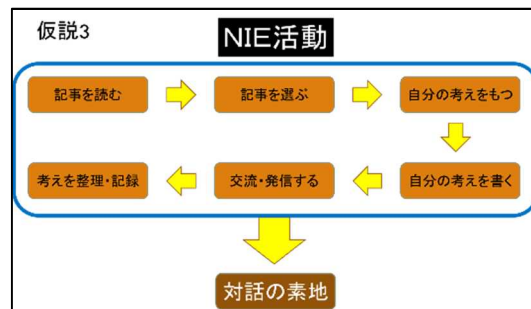
- ・ 朝の会や集会、行事等で新聞記事の紹介をする。
- ・ 授業で新聞記事を活用する。
- ・ 学級通信や学級PTAで新聞記事を活用する。

4 研究の実際

(1) NIE 教育についての校内研修

本校は、北薩地区指定研究校として、国語科の研究を行っている。研究テーマは、「自らの考えをもとに対話し、思考を深める児童の育成 ～話す・聞く活動を中心にした国語科学習指導の在り方～」である。3つの仮説の中の1つに NIE 活動を取り入れて研究を行っており、先日の研究公開では、NIE 教育についても実践発表を行った。

これまで3年間のNIE活動は、新聞を読む・新聞を作る（書く）が中心であったが、新聞記事をもとに自分の考えを話す、友達の考えや思いを聞く、疑問を質問したり、共感を伝えたりという活動へと視点を変えて取り組んだ。また、発達の段階や活動の内容に合わせて、活動の場をペア・グループ・全体発表と工夫した。



これまでの NIE タイム



記事を選び、読む、書く

本年度の取組



記事を選び、読む、書く、話す、聞く

(2) NIE コーナーの活用

① 新聞閲覧コーナー

毎朝、新聞・情報委員会の児童が新聞を配置する。新聞を広げたまま置くことで、通りがかりの児童が自由に読めるようになっており、新聞を購読していない家庭の児童も新聞に慣れ親しむことができる。特に、子供新聞の閲覧が多く、登校後すぐに新聞コーナーに向かう様子も見られる。

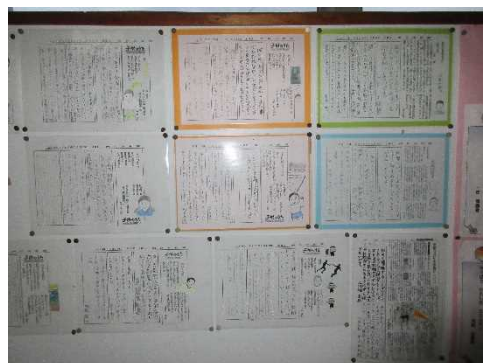
② 作品掲示コーナー

児童の作品を掲示するスペースを低学年、中学年、高学年毎に設けて、NIE 学習の意欲を高め、学年相互の NIE 学習の状況が分かるようにした。「ファミリーフォーカス」の作品を掲示することで、その後の「ファミリーフォーカス」の実践へ見通しがもてるようにした。また、新聞・情報委員会が作成した新聞を掲示したり、気になる記事の紹介を行ったりしている。



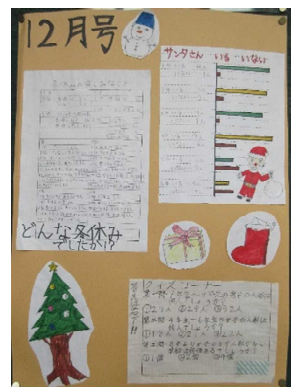
③ 「若い目」「子供のうた」コーナー

南日本新聞社へ投稿を積極的に行い、多くの作品が「若い目」「子供のうた」へ掲載された。掲載された記事には本人・担任・保護者のコメントと共に校長がイラストをつけて、玄関に掲示しており、意欲付けにつながっている。



(3) 新聞・情報委員会による児童会活動

新聞・情報委員会の主な活動内容は、新聞閲覧コーナーの新聞の設置や整理、校内新聞の作成である。月一回、新聞を作成し、NIEコーナーに提示している。新聞の作成は、時期ごとのテーマを考え、全校アンケートを行ったり、インタビューを行ったりしながら、取材した内容をわかりやすく伝える工夫を行っている。



(4) NIE ワークシートの活用

南日本新聞社からいただいたワークシートやホームページからダウンロードしたワークシートを、NIE タイムや朝の会で活用した。

① NIEタイムでの活用

各学年の実態に合わせて教師がワークシートを選び、取組を行った。低学年では「新聞写真アルバム」で、自分の選んだ写真を友達同士で見せ合う活動、中学年では「数字クイズ大集合」や「今日のヒーロー」、高学年では「気になるニュース」の紹介や記事の要約などを行った。

② 朝の会での活用



高学年では、朝の会の「1 分間スピーチ」の中で、今日のニュースの紹介と感想の発表を毎日行った。「気になるニュース」のワークシートを活用し、紹介を行った後はファイリングし、学級のNIEコーナーに展示することで、いつでも見ることができるようにした。

(5) 「若い目」や「子供のうた」等の各種新聞への作品投稿

南日本新聞「若い目」や「子供のうた」等への作品投稿を積極的に呼びかけた。掲載された児童の作品を校内掲示して、児童の意欲化を図った。また、地区「よむのびコンクール」へ3～6年全児童が応募し、家庭でもNIE教育に取り組んだ。

(6) 家庭教育での取組

学期に一回、主に夏休み・冬休みの長期休業中の課題を中心にファミリーフォーカスに取り組んだ。家族で新聞を広げ、児童が記事を選び感想を記入した後、保護者のコメントを記入してもらった。できあがった作品は「よむのびコンクール」へ出品し、「NIEコーナー」に掲示をした。今年度は、伊佐薩摩地区新聞よむのびコンクールにおいて、学校賞を受賞した。



(7) 南風録への取組

高学年では、週に1回、「南風録」を活用した視写と新聞記事の要約、感想の記入の実践を行った。「南風録」の視写は漢字や文章の内容が難しかったため、教師が書いたお手本を見ながら視写させるようにした。新聞記事の要約・感想記入については、家族に読んでもらったり、辞書をひいたり、写真や見出しから内容を想像したりしながら、子供たちなりに自分の考えをまとめることができた。



5 研究の成果と課題

(1) 成果

- 実践研究4年目となる本年度は、北薩地区指定研究校「国語科」の研究公開の場で、これまでの研究のまとめを発表することができた。授業内容や発表時間を考慮し、研究授業・全体発表とは別に、ポスター発表と約7分間の映像による発表を行った。
- 「国語科」の研究テーマ「話すこと・聞くこと」に関連して、NIEの実践の中でも、これまでの「記事を選ぶ」「記事を読む」「考えをかく」の活動に加え、「記事について話す」「友達の考えを聞く」「友達に質問する」「質問について答える」などの活動を取り入れたことで、よりアクティブなNIE活動となった。
- 活動の記録を残したり作品を掲示したりする場を設けることで、お互いのよさを認め合う場や、賞賛の場となり意欲付けにつながった。
- 高学年では、新聞記事や時事ネタなどが児童同士の会話や授業中の発言に出てくるようになり、関心が学校外にも向けられるようになった。
- 学校でのNIEへの取組と、家庭とをファミリーフォーカスを通してつなぐことができ、家庭と協力しながら実践することができた。

(2) 課題

- 毎月のNIEタイムやNIEを授業に活用する際、どのような活動に取り組ませるか、どのような力をつけさせるかなどの準備に時間がかかった。これまでの取組を活かした年間計画を作成する必要がある。
- 南風録の視写への取り組みは十分でなかった。語彙力や読解力の向上のために、今後も視写や見出し作りなどに取り組んでいきたい。
- 新聞・情報委員会の活動を見直し、更に児童が主体的に活動できるようにしたい。